

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	玄関ホールに提示し、フロアには手作りのボードにも掲げ、毎日目に触れるところに提示しています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	朝の申し送り時には全員で運営理念を読み上げ、カンファレンスなどの勉強会や研修会でも具体的に話し合っています。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	入居時はもちろん、面会時やケアプラン説明時に理解していただけるよう何度も説明し、最近では運営推進会議でも話しています。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	地域の人達を招いたり、夏祭りを施設主催にすることで立ち寄りてもらったり、近隣を散歩したりすることで気軽に声をかけあったりしています。		天気の良いときなど、もっと、気軽に散歩できるようにしたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	自治会の運動会や文化祭の参加はもちろん、運営推進会議でも地元の人との交流に努めています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	最近では、地域に認識されるようになり、ボランティアの見学も増えたり、いつでも相談にのることができるように窓口も設置しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営推進会議でも議題に取り入れれたり、カンファレンスや勉強会などで、随時話し合い、取り組んでいます。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	記録を残し、参加できない家族にも閲覧できるようにしています。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	いつでも相談できるようにしています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会で学んだり、いつも目に触れることができるように玄関などに提示しています。実際に、利用している入居者がいらっしゃいます。		新人スタッフにはより一層勉強会を開きたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止については、毎日のカンファレンスで話し合いをもち、知識を高め、防止に努めています。		

グループホーム 八幡西ヶアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約前から書面において、契約から入居までの手続きを説明し、理解・納得を図っています。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見を取り入れ、本人の言葉でケアプランに反映しています。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には近況を伝えたり、請求書には職員からの手紙や写真を同封し、定期的に報告しています。</p>		<p>ご家族との連絡ノートをつくり、記録にも残しています。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約書には市町村の相談窓口を掲載したり、玄関にも提示しています。家族等の意見は記録に残し、運営に反映しています。</p>		<p>苦情報告書として記録に残しています。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>カンファレンスはもちろん、朝の申し送りも長い時間をとり、意見や提案を聞く機会を設けています。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>調整には努めています。</p>		<p>より一層努めていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は行っていません。退職・新人スタッフなど、変化がある場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮を行っています。</p>		<p>新人研修を充分に行いたい。</p>

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の募集・採用については、性別・年齢等で対象から排除することはありません。実際に幅広い年齢層のスタッフを採用しています。運営理念のもと、本人の思いを受け入れ、相談しながら行っています。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入社時には新人研修を行ったり、人権・教育・啓発活動に取り組んでいます。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月を区切り、配属チェックリストを作成したり、その後も面談を行ったり段階に応じて研修を行っています。</p>		<p>人員配置の都合上、内外の研修を受ける機会が少ない。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームはもちろん、他の介護施設にも相互訪問し、情報交換を行っています。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>ストレスを抱えこまないように、定期的に親睦会を開いたり、悩みの聴取をホーム長、管理者、主任が協力してやっています。</p>		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の能力に合わせ、役割分担や責任を持たせることで各自の向上心がもてるように努めています。		ケアプランの担当制やご家族様との連絡も各自が行えるように研修しています。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には、本人様が生活している場所に訪問し、安心して話せる環境の中で面談を行っています。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の施設見学は随時行なうことができ、その中で困っている事、不安な事等を聴き、受け止める努力をしています。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者が何を求め、何を必要としているかを判断し、グループホームの特性を説明した上で本人様のニーズに合うかどうかを話しあっています。		本人様のニーズにあう施設選びを一緒に行う。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を利用したり、何度か訪問してもらい、馴染める方々と触れ合う時間を持ち、ご家族様と相談しながら行っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴を知ることで本人の能力を理解し、職員が学んだり、お互いが支えあう関係を築いています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人様にとっても、私達職員が安心してもらえる顔になり、共に良い関係を作っています。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人様とご家族様の関係をこれから継続できるように、思いを受けながら支援しています。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	関係継続のために面会時間は特に決めていません。なじみのある場所へドライブに行くこともあります。		本人様の希望があれば、自宅の様子を見に行くことがあります。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が中継することで、関わりあえ、支えあうように努めています。		今では、利用者様同士で楽しめる決定(相撲等のテレビ番組)も増えています。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入居時誰もが、退去時の不安を抱えていますので、		退居後の入退院についても、ご家族様が不安にならないように関係を維持し、時間をとって話し合っています。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや考えを私達職員は重視しており、アセスメントの中から見えてくることもあります。		ケアプランが完成するまでに、アセスメント表・モニタリングを十分に活かしています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には家族から情報を聞き入れ、シートに残し、職員全員で把握に努めています。		新人研修の中で情報シートを活用し、いつでも個人ファイルに入れているので見ることができます。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	アセスメントでは、場面ごとに状況を把握し、モニタリングでは短期目標ごとに把握することで総合的に把握できるようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成・見直し時は、本人・家族様の意向を聞き、主治医などの専門的な立場の考えも参考にして作成しています。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護認定の変更時や入退院で状態変化が生じた場合は、すぐに現状にあった計画書を作成しています。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活日誌をはじめ、経過記録、医療情報、申し送りノートなど、全ての情報を記録・共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	各部署が連携し、柔軟な支援をしています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	年間スケジュールを決め、消防訓練等、定期的に行っています。民生委員、ボランティアにも協力を仰ぎ、支援いただいています。		敬老会ではたくさんのボランティアも参加し、地域の方や民生委員、近隣施設の方々も参加され行われました。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近隣施設のケアマネジャーと交流する機会をもっており、ケアに活かす取り組みは行っています。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人様の意向や必要性に応じて協働しています。		地域包括支援センターの職員とは運営推進会議を通して相談したり、協働いただいています。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を大切に、今までのかかりつけ医も継続しながら適切なアドバイスや支援を行っています。		緊急時の搬送先、連絡先など細かく聞き取り、記録に残しています。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医には常に相談できる環境があり、診断や治療も受けられるように支援しています。		専門医の受診の際には家族も同行し、皆で説明を聞き、納得できるまで話し合いを持っています。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医の看護師はもちろん、同一施設内に所属する看護師があり、気軽に相談できています。		加算はとっていません。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>早期退院を目指し、医療機関をはじめ、家族との情報交換や相談に努めています。</p>		<p>入院時には、必ず職員が付き添うことにより早期に情報を受け、退院につながるように助言を行っています。また、相談窓口の活用も行っています。</p>
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>かかりつけ医等と重度化する利用者の今後について話し合いをもったり、家族では毎回の運営推進会議で議題にしています。</p>		<p>家族には早い段階から話し合いを持ち、終末を迎える不安を取り除くようにしたいし、専門のスタッフにも話し合いに参加してもらうようにもしたい。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化することで、事業所の変化を見極め、検討や準備を行っています。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>十分な情報交換と移り変わった後でも、気軽に話し合いをもてるようにしています。</p>		<p>自分たちだけで介護することは考えず、今までのケア関係者の情報をもとにこれからの支援に役立てています。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの確保は、入社時、新人研修時にカンファレンスの場で学び、徹底させています。</p>		<p>入社時に個人情報の取り扱いについて、説明を受けています。</p>

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定に基づき、思いや希望を表し、納得して生活できるように支援しています。		本人の思いを察知することで、少しでも表せるようにしていきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に考え、その人らしい生活ができるように支援しています。		外出や散歩、ドライブなども含め、業務優先にならないようにしています。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人様の望むように支援しています。施設内に理美容室があります。		ご家族様と一緒になじみの美容室に行くこともあれば、施設の理美容室に自ら希望や予約を入れています。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と職員と一緒にしています。		お米を研ぐ人、料理を盛り付ける人、お皿を拭く人など、役割分担ができています。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前には嗜好を尋ね、本人様やご家族様の希望を確認する。		その日に食べたいと思う物を買に行ったり、季節に合う物を選んだりして、実際にメニューを変更したりしています。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人様の力を活かし、気持ちよく排泄できるように支援しています。		紙オムツ・下剤に頼らないようにカンファレンスで話し合い、実践しています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間をもっとも大切な時間とし、本人様と職員、1対1のコミュニケーションの場所となっています。		夕方からの入浴は職員の配置上できていません。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣に添って支援しています。		不眠のときに専門医からお薬を処方してもらっている場合があります。r
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割分担などは、職員が試行錯誤しながら定着を図っています。		食事作り、配膳係りなど小さく役割を分け、職員も一緒に関わりながら、いつまでも続けていけるように支援しています。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さは理解しているが、管理はすべて事務所でを行っています。		財布は事務所管理だが、本人様が必要と思うときに事務所に取りにいき、買い物に行けるようにはしています。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は体調によって考慮するも、希望があれば出掛けるし、天気の良いときには近くに散歩に出掛けています。		なじみのある場所や今まで生活していた所に行くことで、社会との距離をいつでも身近に感じてもらっています。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	職員だけでなく、家族にも協力してもらい、外出の機会をつくっています。		自宅に外泊したり、家族旅行に出掛けたりしています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりなど、ご家族様に協力してもらい、行っています。		ご家族様には定期的に電話をかけてもらうなど協力してもらい、手紙はいつでもだせるようにしています。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問は時間の制約なく、いつでも面会できるようにしています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎日のカンファレンスでの話し合いを心がけ、拘束のない生活を送れるように努力しています。		拘束を廃止できるように努力し、すでに達成したケースもあります。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	すべてのドアには鍵があるものの、すべて開放する努力をしています。		1階の玄関はモニター式の開閉になっていますが、2階のスペースはすべて鍵をかけない取り組みになっています。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーには十分配慮して行っています。		排泄にかんしては、見守りや介助の必要性がある場合以外は、プライバシー重視に努めています。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	服薬の管理は施設で行っていますが、一人ひとり状態に合わせて普通の生活に近いように設置しています。		手洗い石鹸・消毒液など、常時利用するものは、自然な形で設置しています。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	主治医や専門知識をもつ講師などを招き、学び、事故防止に取り組んでいます。		カンファレンスでは、毎回のモニタリングとは別に、研修課題を取り入れ、講師などから専門的に学んでいます。事故報告書を記入することで、再発防止に取り組んでいます。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成し、日頃から目に触れる所に設置しています。		年間の行事予定の中に、消防訓練・救急講座の実施と、夜間の勤務体制の中での急変時の対応を定期的に学んでいます。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害緊急マニュアルを作成し、飲料水などを確保しています。		地域の人々には運営推進会議などで、和が家の取り組みについて説明し、地域にも協力していただけるよう働きかけています。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクマネジメントとして研修の項目にもあげ、入退院・状態の変化時にはご家族様に説明を行い、対応策を話し合っています。		経過記録を職員が記録することで、日々の変化を見逃さず、日頃から家族にできるようにしています。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	小さな気づきを大切にすることで早期発見につながるようにしています。		医療情報シートや経過記録、申し送りノートなどのすべての情報を記録に残し、職員が情報を共有し、早期の対応に努めています。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬を理解することで、症状の変化の確認に努めています。		服薬セットは職員が持ちまわりで行い、薬の必要性・重要性を学び、最終管理は管理者が責任をもって行っています。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の予防には、主治医からの指示を受け対応していますが、一人ひとりの原因を理解することで、解消できるように努力しています。		薬に頼ることだけではなく、予防に力を入れ、食生活の工夫や運動を取り入れたり、マッサージすることで改善できるようにしています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きを徹底し、本人様に無理なく口腔状態の確認ができるようにしています。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックリストを作ることで、毎日の水分、食事の摂取量を確認し、月初には体重測定を行っています。		主治医から食べる量や栄養バランス、水分量の指示を受け、一人ひとりの状態に応じた支援を行っています。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを作成し、時季に応じた研修を行っています。		インフルエンザの予防注射や手洗い・うがいの習慣(面会者も含む)をつけています。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の衛生管理簿の記入を行い、月に1回は栄養士による点検・指導を受け、徹底した管理を行っています。		エプロンの交換や三角巾の着用を徹底しています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには、親しみやすいように鉢植えなどを置き工夫し、掲示板には毎月の便りや行事計画を載せています。		生活スペースが2階にあることで、1階の玄関とは距離感があります。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をもたせるためカレンダーをつけたり、写真や飾り物で工夫しています。音や光にも時間や天気を考え配慮しています。		特に光に反応する利用者様には暖簾をつけたり、小窓に少し工夫することで居心地よく過ごせる配慮をしています。

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも、自分の居場所をもてるように工夫しています。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様や御家族様と相談しながら居心地良く過ごせるように工夫しています。		居室を使い慣れた物で居心地良くしている利用者様と、物を置くことによって不安になりすっきりとした居室で安心感をもつなど、本人の望む空間作りを工夫しています。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者様の状況に応じて窓の開閉や寝具・衣料などの清潔にも配慮しています。		季節を感じることを大事に考え、温度調節に配慮しながら夏は薄着、冬は厚着で過ごしていただいています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が送れるよう手すりを設置したりして工夫しています。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室を明確にしたり、便所・風呂をはっきりと分かりやすく提示することで、混乱を防ぎ、自立して暮らせるよう工夫しています。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには鉢植えを置き、水遣りをしたり洗濯物を干したり、生活の一部として活用しています。		

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 八幡西ケアセンター和が家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の支えあいを大事にし、和が家をおこの地で根付かせ、地域の人々が歳をとったら和が家に行けば相談にのってくれる、と誰もがそう思ってくれるグループホーム作りをしています。その為には、今ここで生活して、ご利用者様満足できているのか。共に生活している職員も、入居者と共に笑顔でいられるようにしていきたい。ゆりユニットの基本方針である、「元気で明るく楽しい和が家。いつも笑顔で和気あいあい。やさしさあふれる安らぎホーム」を目指していきます。また、職員間のコミュニケーション・連携を図ることで、よりよい環境づくりをしていきたいと思っております。